

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：17301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24653120

研究課題名(和文)メモリー・スタディーズのモデル構築に向けた領域横断的研究 - 東アジアを事例として

研究課題名(英文)Cross-disciplinary approach towards model construction of memory studies: in the case of East Asia

研究代表者

葉柳 和則 (HAYANAGI, Kazunori)

長崎大学・多文化社会学部・教授

研究者番号：70332856

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：東アジアにおける記憶の共有についての学際研究のモデルの構築作業を行った。まずは、複数の学問分野の方法をクロスオーバーさせた方法によって事例研究を積み重ねた。主として、長崎をフィールドとした歴史記憶をめぐる表象の政治についてのメディア論的分析、中国帰国者たちが想起する満州に関するエスノグラフィ、研究モデル構築のための試案の作成と公表である。また、これらに関連した個別のテーマの研究成果も生まれた。長崎に関する研究と中国帰国者に関する研究は、学会やシンポジウム等での報告を経て、論文として公開している。研究モデル構築については、既に行った口頭発表を踏まえて、今年度末に国際会議で最終報告する。

研究成果の概要(英文)：In this project we intended to construct a interdisciplinary research model to investigate the modi how people in East Asia share their memories of the 20th century. First, we took a course of conducting case studies which cross over the methods of some academic disciplines, such as sociology, history, and narratology. Our main subjects are media analysis of the politics of representation regarding historical memories in Nagasaki, ethnography of memories of Manchuria under the Japanese people returned to Japan from China, and making tentative plans for building research model. The research findings about memories in Nagasaki and those under the Japanese returned from China were published in academic journals, after presentations at academic conferences and meetings. Concerning the building of the research model we are going to present our final report on the basis of our achievements during the past 3 years at the international conference we will hold at the end of the fiscal year.

研究分野：文化社会学

キーワード：歴史記憶 東アジア 学際研究 モデル構築 表象の政治

1. 研究開始当初の背景

本研究グループは、環東シナ海圏域における生の諸相を「自然との共生」、「他者との共生」、「記憶との共生」の連接という観点から共同調査している。プロジェクトの特徴の1つは、「記憶との共生」という局面に光を当てることにある。その際、明らかになったのは、(1)人文・社会科学の記憶研究は、今日なお研究の基本モデルを共有していないということ、(2)他方で、集合的記憶研究をベースとすることによって、人文・社会科学における理論的・方法的な対話が実現可能であったことであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、1980年代の末以降人文・社会科学において展開されてきた集合的記憶に関する諸研究(メモリー・スタディーズ)を、社会学なアプローチを軸にして1つの理論-調査モデルに統合し、領域横断的な記憶研究の基盤を構築することである。

具体的には、社会学、人類学、民俗学、歴史学、ナラトロジー、都市計画を専門とする研究チームを編成し、長崎と東アジア諸都市をフィールドとして、東アジアにおける20世紀の記憶をめぐる調査を遂行する。調査結果をめぐる議論を通して、今日まで必ずしも十分に融合的な形で行われてはこなかった諸研究領域のアプローチの間に対話的關係を作り出し、集合的記憶を軸にした文系型の共同研究の基本モデルの確立を目指す。

3. 研究の方法

複数の専門分野にまたがる研究方法を設定し、長崎と東アジア諸都市における具体的な調査研究を先行的にを行い、そこで仮説的に研究モデルを構築し、それを議論の場に供することによって、モデルとしての精度を高める。最終的には具体的な調査の結果の説明力の高さと構築したモデルの適用可能性によって成果を測る。

4. 研究成果

東アジアにおける記憶の共有についての学際研究のモデルの構築作業を行った。まずは、複数の学問分野の方法をクロスオーバーさせた方法によって事例研究を積み重ねた。事例に関しては期間内に十分な成果の見込めるものを精選した結果、長崎をフィールドとした歴史記憶をめぐる表象の政治についてのメディア論的分析、中国帰国者たちが想起する満洲に関するエスノグラフィ、研究モデル構築のための試案の作成と公表が主たるテーマとなった。また、これらに関連した個別のテーマの研究結果も随時発表した。

事項で示すように、長崎に関する研究と中

国帰国者に関する研究は、学会やシンポジウム等での報告を経て、論文として公開している。研究モデル構築については、既に行った口頭発表を踏まえて、今年度末に国際会議で最終報告する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

1. Hayanagi Kazunori, (2014): "Japanese Orientalism and the Representation of Nagasaki: Based on the analysis of guidebooks in the modern era" *Cultural Interaction Studies of Sea Port Cities*. 11, 237-268. 査読無.

2. 渡辺豊史、栗田英治、土屋一彬 (2014)「農村計画に関わる都市近郊地域研究の近年の動向と展望：矛盾の調整と融和の形成」『農村計画学会誌』33(3)、349-355、査読無.

3. 南誠 (2014)、歴史記憶の共生と研究実践に関する国際的対話の試み：国際シンポジウム「東アジアにおける歴史記憶の共生と研究実践」の開催、『方正の会』方正友好交流の会、50-56、査読有.

4. 南誠 (2014)、從“国民”到“移民”：中国帰国者の歴史形成と身分認同(中国語) 袁丁編『近代以来亜州移民与海洋社会』広東出版社、107-117、査読有.

5. 南誠 (2014)、残留中国日本人話語：以電視記録片為題材(中国語)、『新史学 8 歴史と記憶』中華書局、270-288、査読有.

6. 南誠 (2014)、中国帰国者の移動体験、シンポジウム『「多文化共生」の新たな展開に向けて：移動する人々からみた日本社会の課題』報告書青山学院大学社会連携機構国際交流共同研究センター、17-21、依頼原稿、査読無.

7. 南誠 (2014)、「満洲」記憶に関する計量的分析の試み：長野県の碑を中心に、『21世紀東アジア社会学』第六号日中社会学会、55-71、査読有.

8. 南誠 (2014)、歴史記憶の共生と研究実践に関する国際的対話の試み：国際シンポジウム「東アジアにおける歴史記憶の共生と研究実践」の開催、方正友好交流の会、50-56、依頼原稿、2014、査読無.

9. 渡辺貴史・横張真 (2013)、持続可能な都市形成に対する「農」の役割、『農業および園芸』88 (10)、998-1012、査読無(依頼原稿(総説))。

10. 南誠 (2013)、近代日本の移民和中国帰国者(中国語)、『近代以来亜州移民と海洋社会』(国際学会論文集) 中山大学東南アジア研究所、229-234、依頼原稿、2013、査読無。

11. 葉柳和則 (2013)、ヘテロトピアとしての端島/軍艦島:「負の記憶」をめぐる言説の配置をてがかりに、『21世紀東アジア社会学』5、2013、91-105、査読有。

12. 才津祐美子 (2013)、世界遺産と日本の文化遺産、『21世紀東アジア社会学』5、117-130、査読有。

13. 南誠 (2013)、越境する中国帰国者の生活世界、『21世紀東アジア社会学』5、145-158、査読有。

14. 保坂稔 (2012)、「自然エネルギー転換意識の形成プロセス - 内発的動機の観点から - 」、『総合環境研究』14(2)、1-10、2012年4月、査読有。

〔図書〕(計2件)

1. 南誠 (2014)、戦争と移動、民俗学辞典、丸善出版、272-273。

2. 波佐間逸博 (2014)、「 - 7 遊びと娯楽闘鶏」担当、『民俗学事典』、丸善出版、686-687。

〔学会発表〕(計30件)

1. 葉柳和則、「旅行ガイドブックの中の長崎イメージ - 「見る価値のあるもの」をめぐる表象の政治」 第4回 日韓知識人ワークショップ「アジアにおける共生(相生)と歴史・記憶の再評価 : 「事件・人物・場所」を中心に」、2015年2月14日、長崎大学(長崎市)。

2. 南誠、「日本鬼子」イメージの変遷に関する一考察、日本と中国: 記憶との共生、2015年1月31日、長崎大学(長崎市)。

3. 葉柳和則、(2015)「端島/軍艦島をめぐるメディア言説の内容分析」 ワークショップ「日本と中国 - 記憶との共生」、2015年1月30日、長崎大学(長崎市)。

4. 南誠、「本国帰還者」とアジア交流圏構想の可能性、越境する人と文化から問うアジア: 多文化社会の形成にむけて、2014年12月20日、長崎大学(長崎市)。

5. 南誠、満蒙開拓平和記念館・満蒙開拓研究所主催「国境を越えて共に考える旧満洲と満蒙開拓」にてパネリスト、満蒙開拓平和記念館・満蒙開拓研究所主催「国境を越えて共に考える旧満洲と満蒙開拓」、2014年10月12日、阿智村コミュニティー館(長野県飯田市)。

6. 南誠、九州弁護士連合会主催「中国残留帰国者の現在と問題点: 尊厳ある共生社会を目指して」にてパネリスト、九州弁護士連合会主催「中国残留帰国者の現在と問題点: 尊厳ある共生社会を目指して」、2014年9月13日、アクロス福岡4階・国際会議場(福岡市)。

7. 李偉・南誠、大連における都市公園の誕生と変遷、海洋都市の社会構造と文化アイデンティティ、2014年4月25・26日、韓国海洋大学校・釜山(韓国)。

8. 李偉・南誠、大連における都市公園の誕生と変遷、国際シンポジウム「海洋都市の社会構造と文化アイデンティティ」、2014年4月25・26日、招待講演、釜山韓国海洋大学校・釜山(韓国)。

9. Hayanagi Kazunori, (2014) "Japanese Orientalism and the Reception of Nagasaki: Based on the analysis of guide books in the modern era." The 4th International Conference of the World Committee of Maritime Culture Institutes (WCMCI). 25.4.2014 Korea Maritime and Ocean University, Pusan (Korea).

10. 葉柳和則、博物館と観光地における表象の政治: 長崎のミュージアム展示と記憶の場を事例にして、国際シンポジウム「東アジアにおける歴史記憶の共生と研究実践」、2014年3月8日・9日、招待講演、阿智村コミュニティー館(長野県飯田市)。

11. 南誠、日本における満洲記憶の生成と再生産、国際シンポジウム「東アジアにおける歴史記憶の共生と研究実践」、2014年3月8日・9日、招待講演、阿智村コミュニティー館(長野県飯田市)。

12. 南誠、トランスナショナルな中国帰国者、国際シンポジウム「北海道における多文化共生: その理念と実践」、2014年3月1日・2日、招待講演、北海道大学(北海道)。

13. 南誠、中国帰国者と多文化共生: アンケート調査の結果を手がかりに考える、国際シンポジウム「東アジアにおける人の移動と多文化共生」、2014年2月9日、招待講演、長崎大学(長崎市)。

14. 南誠、近代日本の移民和中国帰国者、国際シンポジウム「近代以来亜州移民和海洋社会」2013年12月22日、招待講演(中国語)、中山大学・中山市(中国)。

15. 葉柳和則、近代日本の縮図? : 端島/軍艦島をめぐるメディア言説の内容分析、国際シンポジウム「東アジアにおけるヒト・モノ・情報・資本の多元的流通-グローバルな社会・文化動態研究に向けた学際的試み」2013年12月14日、長崎大学(長崎市)。

16. 南誠、中国帰国者の移動体験、国際シンポジウム「多文化共生」の新たな展開に向けて: 移動する人々から見た日本社会の課題、2013年12月7日、招待講演、青山学院大学(東京都渋谷区)。

17. 南誠、満洲縁故者を手がかりに考える境界文化の意味、日中社会学会・北京日本学術センター共催「グローバルリゼーション・インパクトの日中比較研究: リスク・信頼・モダニティと東アジア社会の行方」2013年3月23日、筑波大学東京校舎(東京都文京区)。

18. 葉柳和則、自然・他者・記憶——共生の3つの局面と持続可能な東アジア交流圏をめぐって、国際シンポジウム: 日中間の知的交流に関する学際的研究: 長崎と上海をめぐる学術共同研究の試み、2013年3月17日、長崎大学(長崎市)。

19. 葉柳和則、記憶のトポロジー、あるいは端島/軍艦島をめぐる表象の力学、富山大学東アジア「共生」学創生の学際的融合研究(CEAKS)最終討論会: これからの日本と東アジアを考える——新たな人文社会知をもとめて、2013年3月7日、富山国際会議場(富山市)。

20. 葉柳和則、「共生」概念の学際的統合、アジア大学間協力ネットワーク構築のための日韓合同ワークショップ: アジア共生と平和空間の創出、2013年2月8日、韓神大学・ソウル(韓国)。

21. 葉柳和則、近代的想像力の外部へ---青来有一による長崎表象の思想的水脈、海港都市研究コロキウム、2013年1月13日、神戸大学(神戸市)。

22. 葉柳和則、青来有一と長崎の表象---あるいは世に在ることの承認をめぐって、第8回海港都市国際シンポジウム: 東アジア交流圏の構想と海港都市の経験、2012年12月13日、長崎大学(長崎市)。

23. 波佐間逸博、日本の闘鶏、国際学術研究集会「長崎と上海 学際的共同研究への模

索」2012年11月24日、華東師範大学(中国)。

24. 南誠、中国帰国者をめぐる包摂と排除の歴史社会学、国際学術研究集会「長崎と上海 学際的共同研究への模索」2012年11月24日、華東師範大学・上海市(中国)。

25. 葉柳和則、原爆文学と都市表象のあいだ: 青来有一の非実証主義的想像力を手がかりに、国際学術研究集会「長崎と上海 学際的共同研究への模索」2012年11月24日、華東師範大学・上海市(中国)。

26. 南誠、満州引揚者と中国帰国者の歴史社会学的研究、日本社会学会第85回大会「若手セッション 歴史/国家/社会」2012年11月3日、札幌学院大学(札幌市)。

27. 南誠、改革開放後の「中国残留日本人」と日中関係、国際研究集会「改革開放以来中国の社会変革と日本」2012年9月17日、清華大学・北京(中国)。

28. 南誠、中国残留日本人の形成及び歴史について、国際研究集会「改革開放以来中国の社会変革と日本」2012年9月16日、清華大学・北京(中国)。

29. 南誠、中国残留日本人の形成及び歴史について、長崎県地域生活支援連絡会、2012年7月27日、長崎大学(長崎市)。

30. 才津祐美子、全国歴史とまちづくりの福岡大会・第7分科会「歴史・伝統文化と記憶継承 - 情報・普及啓発 - 」2012年6月2日、松楠居(福岡市)。

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年
月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

<http://asia.prj.nagasaki-u.ac.jp/>

6. 研究組織
(1)研究代表者

葉柳 和則 (HAYANAGI, Kazunori)
長崎大学・多文化社会学部・教授
研究者番号：70332856

(2)研究分担者

渡辺 貴史 (WATANABE, Takashi)
長崎大学・水産・環境科学総合研究科 (環境)・教授
研究者番号：50435468

保坂 稔 (HOSAKA, Minoru)
長崎大学・水産・環境科学総合研究科 (環境)・教授
研究者番号：80448498

才津 祐美子 (SAITSU, Yumiko)
長崎大学・多文化社会学部・准教授
研究者番号：40412613

南 誠 (MINAMI, Makoto)
長崎大学・多文化社会学部・助教
研究者番号：70614121

(3)連携研究者

波佐間 逸博 (HAZAMA, Itsuhiro)
長崎大学・多文化社会学部・准教授
研究者番号：20547997